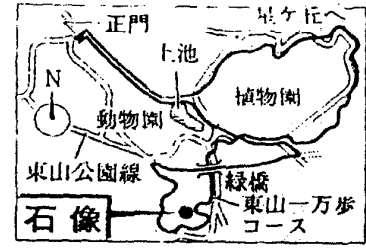


東山公園

樹林内に隠れ石像

戦前の神社遺物 今はB.S.の守り神



千種区から大口区にかけて広がる東山公園の一角に、人知れずひっそりと立っ

て広がる東山公園の一角に、人知れずひっそりと立つ石像がある。市内のボーイスカウトたちの間では「守り神」として大に知られてきたが、正体は約五十年前の御嶽山を祭った神社の遺物。敬虔な連帯をたどってきた。

東山動物園の南を走る東山公園線の緑橋西側から、一万歩コースを南に約四百メートル歩いた樹林の中に立っている。高さ約二



歲月で風化した石像。今はボーイスカウトの「守り神」。東山公園内

「昔、あの辺りでキャンプ訓練をしていた先輩が立てたものと聞いています。道徳命(みちののみこと)と名付けられ、活動の守り神として昭和三年、父の太田勇吉さんが現在の東山公園一帯に、御嶽山

とろろが、行像の前にある花びらに彫られている名を頼りに、西区松前町一前を頼りに、西区松前町一の無職後藤清吉さん(を訪ねると「あり、私のもんです」。

神を祭る神社を開いたのが昭和十三年。社務所もあつたが、清水かわき出る場所、戦中は兵舎として使われ、立ち入り制限。戦後は公園用地となつたため、手入れが行き届か

ず、二十年も風化したとい

偶然、石像を見つけたという八十歳のハイカーは「立派な物があるもんだね」と話していた。

神社の主任、ボーイスカウトの守り神に続き、今度はハイカーたちの「道徳命」としても活躍の道が開ける

「まさか、ボーイスカウトの守り神になっていたとは」

ボーイスカウトの浅井さんは、これを聞いて「残念です」とホッリ、氣を取り直して「私たちがとっての守り神として、これからも大切にしていきたい」と話していた。

市民版